

『博士ちゃん』に想う事

其の四

一九六三年(昭和三八年)三月出生

佳羅春男

五〇年弱遅れの「しくじり博士ちゃん」

先天性脳障害(高機能自閉症≡非知的障害)者の眼から観たテレビ番組

「学校では先ず教えない特定分野に特段の関心を持ち且つ社会の専門家と対峙するだけの卓越した能力を發揮する」子供(小学校中学年児童)高等学校生徒(達を紹介する多様性番組『博士ちゃん』(『テレビ朝日』…以下、テレ朝)。——日本に於ける多くの学校が夏休みの間(東北と北海道は八月中旬迄)に今年は四本の新作が放送された。

七月二二日 博士ちゃん(二人・平均年齢一二歳)が選ぶ戦国武将二〇傑(二時間二四分枠)

七月二九日 天然石目利き(中学三年男子)／恐竜の「健康診断」(中学二年男子)

八月二二日 日本の不思議遺産(二〇人、一時間三〇分枠)

八月二六日 博士ちゃん(二人・平均年齢一五歳)が選ぶ昭和の歌手・男女各一〇傑(二時間四分枠)

——全ての日本人が「戦争」について否応無く考えねば成らぬ八月に「政治に詳しい博士ちゃん達」を募った上で「私(僕)達が平和な日本・平和な世界の為になるべき事について、意見を戦わせつつ考える」旨の企画が今年も放送されなかったのは残念の極みだが、新作の放送(当初は九月一六日の予定が二三日に繰り下げられる)「籠球日本代表選手団の自力に拠るオリンピック出場権獲得に伴う特別番組(九日放送)の為」迄の三週間の空白を利用しつつ、此処では主に、「戦国武将」と「昭和の歌手」に関して考察し論ずるを試みたい。



先ずは、「戦国武将二〇傑」に関して。

「博士ちゃん」達を扱き使つて(?)のお粗末な寸劇(四本)と、大阪城の非公開域を借り切つては元庭球選手氏(『世界水泳選手権福岡大会』(七月一四〜三〇日開催)宣伝の為に出演)を無理射利(?)一男子(中学二年)と共に走らせて(而も、同氏が途中で脚を痛めたが故に結局、「編集」とやらで誤魔化した)の「昼討ちごっこ」とには憤りすら禁じ得なかったが、そんな中、戦国時代に嵌まつてる子供達一四人の総意で選ばれた「三大武将」は、①立花宗茂(二五六七—一六四三)②大谷良継(二五六五?—一六〇〇)③真田幸村(本名は信繁。一五六七?—

六二五)。

立花と大谷を含む七武将が教科書に載ってないにも拘らず二〇傑入りと成った一方、超有名な戦国三大武将については…。

——「織田信長」は何とか一八位に入つたが、「豊臣秀吉」そして戦国時代の最終勝者である「徳川家康」が共に「ランク外」と成った事には筆者としても正直な所、驚きを隠せなかった。

立身出世の象徴とされて久しい秀吉、並びに二六四年に互る(二六〇三年(慶長八)「征夷大將軍」一八六七年(慶応三)「大政奉還」)江戸幕府の礎を築いた家康が共に「博士ちゃん」達からは嫌われてる。何故だろう。——其の答えから先に申すなら、秀吉は朝鮮半島の征服(≡植民地化と現住民

族の「同化」を企て「るも失敗(↑本人の死(二五九八)に因り撤退。彼の此の「野望」は但し、三〇〇余年後、明治政府に拠つて成就を見る↑「日露戦争」の結果に因る「日韓併合」(一九〇四—一九一〇)「し」た事が、家康は「他人を騙(だま)くらかしての出世(↑「言はぬが華」)」と「才能(遺伝するとは限らない!)無視・家系単位の固定身分制度(↑「士農工商」↑インドの「カースト制度」を参考として編み出した?)の構築」が、総じて「自身の生命を犠牲としてでも、家臣更には支配下領域の住民を護り通した」武將を選ぶ傾向が見られた「博士ちゃん」達には嫌われてるのか——と筆者は推察する。

「時間と字数の関係で順位と氏名のみとするが、」因みに、四位以下・二〇位迄に入った「教科書に載つてない戦国武將」は、
 ⑥鳥居強右衛門⑧成田長親⑩清水宗治⑫蒲生民郷⑭小田民治。
 ——敵軍(武田家)に取り囲まれ

てる自軍(奥平家)の城を抜け出し、味方する武將(徳川家康)の城へ支援を求む役割を自ら志願し赴くも、敵軍に捕えられ貼り付けで最期を遂げた「鳥居:」が上一〇位内選ばれた事だけを見ても、「博士ちゃん達はやっぱり、普通じゃない。「達障?其とも特才?」感を感じ得なかったのは、筆者だけでは無からう(但、敢えて亀甲括弧(□)で括つた文言に迄考えが及んだ方はどれだけ居たろうか(次項後半にて詳述))」。



戦国武將に関しては一息入れるとして、平均年齢が少し上がっての、昭和歌謡に嵌まる子供達一四人が選ぶ「昭和の歌手・男女各一〇傑」について。

案の定、女性歌手の第一位は「美空ひばり(加藤和枝 一九三七—一九八九以下、美空)だった。にしても:。「博士ちゃん」達の出生から遡って一六年以上前

に死んだ、而も、「番組では敢えて言及を避けた様だが」「芸能と暴力団」との「鎖縁」の象徴的な存在としても語られている(実質活動開始(一九四七||昭和二三)の翌年、暴力団「山口組」(終戦直後から、兵庫県内に於ける芸能興行を取り仕切つた、との事)の長と出会ひ、彼の死亡(一九八一)時には葬儀にも出席。亦、暴力団員だった弟が起こした刑事事件を機に、前年迄一七回続いた『紅白歌合戦』(NHK)への出演を辞退(一九七三)。因みに同年から数年間、テレビ朝は美空単独出演の音楽番組を大晦日(二月三二日)・『紅白:』と略同じ時間帯に放送している(↑テレビ朝は、当時も今も、実質的に『朝日新聞社』と『東映』の共同経営。後者の専属で主に時代劇に出演していた(一九五四—一九六三。此の出演契約にも「山口組」が関わつた)縁も在る)歌手。にも拘らず何故、昭和歌謡に嵌まる子供達の圧倒的と言える支持を集めるのか。

「博士ちゃん」と親御さんの

皆様も、美空と暴力団との関わりについては研究調査の段階で目にはしている筈だが、幾ら何でも其を肯定的に捉えて票を投ずる「なら、正に病的異常其のもの!」訳が無いだろうし、美空に特化しての中学三年女子の職業歌手としての門出(後で詳述)への「御祝儀」故とも考え難い。

「博士ちゃん」達の総意が美空を「昭和に於ける最高の女性歌手」に選んだ理由は結局、以下の二つに集約される——と筆者は解釈する。

一つは、満一〇歳で芸能活動を始めた、即ち自分達と略同年代で表に出た「職業人として(美空)と未だ素人(「博士:」)の違いは在れど一事。

今一つは、「作詞家(美空の最終楽曲も担当)並びに美空の付き人だった女性の、何れも職業歌手に成つた中三女子との会見に於ける内容(何れも楽曲収録の際、▽二週間前に関連の全ての資料を要

求しては目を通す▽本番時には扇風機の音すら邪音とし其の聞こえを許さない▽自らを追い込み日時を遅れを許さない・趣旨例を総合すると「完全主義者である事」宛ら「黒沢明（一九一〇—一九九八、映画監督）」の「音楽且つ演じ手版」？—だろう。是については更に、此処で解説を加えねば成るまい。「完全主義」（一つの課題を一旦、始めたら最後、完璧な仕上がり・納得行く状態を見る迄は妥協と半端を許さず、気に入らねば何回でも遣り直す）は、発達障害（知的障害を伴わないもの—「アスペルガー症候群」「高機能自閉症」等。以下、達障児（者）・並びに特才児（者）（↑特定分野に特異な才能の在る児童及び生徒（後成年者）…本書末の「お断り」参照）に略共通して見られる特徴、と聞いている「筆者（高機能自閉症者）自身が正に該当者」。但、当該課題の完成迄の間、達障児（者）が新たな失敗を経験する毎に癩癩を引き起こす（＝ばにくる）

傾向が多く見られる「筆者もそうだ」のに対し、特才児（者）にはそう云う傾向が見られない—と聞いている。「是も番組では敢えて言及を避けた（或いは会見では語られるも放送では敢えて割愛したかも知れぬ）様だが」特に、収録日時の遅れを許さぬべく自らを追い込む事を、常に癩癩を伴わず沈着冷静に熟し伏つてたなら、美空も「特才者」だった—と言える感が筆者には在る。元付き人との会見では「他人には聞こえない、遠くからの焼き芋売りの声も彼女には聞こえた」旨の証言も聞かれた（但しこちらは、同一種別・同一事象名の達障児（者）並びに特才児（者）の間であっても、在る場合と無い場合とが在る）。満一〇歳にして音楽で働き始めた「、自分達と略同じ(?)」完全主義者。故に、「暴力団との関わりについては敢えて目を逸らし、「業績を高く評価しよ

う。—是が、昭和歌謡に嵌まる「博士ちゃん」達の「暗黙の総意」なのかも知れない。序乍ら、「博士ちゃん」達に選ばれた男女各一〇人の歌手中、一七人は存命中（に付き本書では氏名表記を差し控える（↓本書末の「お断り」参照）。美空と共に故人から選ばれた「昭和の歌手」は何れも男性で、④西城秀樹（木本慎之介一九五五—二〇一八）⑥尾崎豊（一九六五—一九九二）。—面白いと言おうか、「石原裕次郎（一九三四—一九八七。テレビ朝系のドラマに数多く出演）」と「坂本九（大島九 一九四一—一九八五事故死↑搭乗飛行機墜落。自身が歌う一日本語楽曲がアメリカ合衆国でも大売れ（一九六一年から三年間で一〇〇万枚以上）。亦、『パラリンピック（国際身体障害者スポーツ大会）』の日本初開催（一九六四）に際し資金援助の為の演奏会を催す等、慈善活動にも積極的」が共に「博士ちゃん」達には選ばれなかった事も或る意

味、興味深い。△ 「昭和の歌手・男女各一〇傑」第七位迄を発表した所で、美空に特化してる中学三年女子の職業歌手活動開始（七月五日付）の報告が在り（『博士ちゃん』初出演（二〇二〇年五月）時の映像（動画）の上部字幕にカラオケ機器会社の指定文字が見られた。歌手を目指して九州から転居して来た、との事だが、彼女が九州時代に利用したカラオケの双方向通信機能を使って(?)同社がスカウトし東京へ呼び寄せた?)、共に繰り返し共演してる、中学二年男子（架空楽曲の覆紙創作）の作詞と高校三年男子（電子リードオルガン操作）の作曲に拠る「応援歌」の試作品（歌声は架空女声歌唱ソフト（『初音ミク』?）を使った様でも）披露された。プロの道を歩み出した美空特化の中三女子へ、更に、共演の中二男子と高三男子へも、筆者としては敢えて、此の言葉を贈

りたい。

「演歌を世界へ。」

まずは日本国内で実績を積み上げて足場を固め―向こう一〇年は掛かるかな―た上で更に、諸外国へも自ら進んで足を運んで、其の国の人々の輪の中に入って会話する中で、彼等の生活習慣等を理解した上で、自らの旋律と歌声を現地語そして日本語で披露し、日本語と演歌の素晴らしさについて共感且つ理解を持つ人を多く得た上で、彼等(彼女達)に自らの音楽ソフトを買って戴く事。其の積み重ねの先に、「坂本九」以来の「海外に於ける日本語大衆楽曲の多量売買」への道も拓かれ得る。――

非営利の法人を介しての、長期的な後援が要る」―に居る、と信じて止まぬ筆者としての期待。

△

此処迄来たら、歌手に留まらず、「昭和の作詞家」や「昭和の作曲家」更に究めて「昭和の編曲家」について、出来れば各々、今回と同様に二時間前後の枠を撰った上で、音楽関係の「博士ちゃん」達に選んで貰い、上位一〇〜二〇位を放送で発表しては如何か。

「故人限定」の条件付き(本書末の「お断り」参照)で、筆者が選ぶとしたら――

作詞家については「岩谷時子(一九一六(大正五)―二〇一三)」を推さざるを得なからう(初期作『愛の讃歌「の翻訳」』については筆者としても疑問を禁じ得ぬが:。「博士ちゃん」達の研究成果発表に期待)。

作曲家と編曲家については共に「井上忠夫(大輔:別名。楽団『ブ

ルーコメッツ』の一員。一九四二―二〇〇〇自殺↑妻の介護に疲れて?)」を推したい。作り手と演じ手の分業が当然且つ常識だった大手大衆音楽(『歌謡曲』の世界に身を置き、大手故の制約と向き合い「葛藤と妥協を強いられ」つつ、「作詞こそ外部委託だが」作曲と編曲を自身で手掛け其を自ら歌う―と云う業を「恐らく日本で初めて」熟し続けたから。

さて、「昭和歌謡博士ちゃん」諸君は、「昭和の作詞家」「昭和の作曲家」そして「昭和の編曲家」に各々、誰を選ぶ?。

◇

美空に特化の中三女子に限らず、「昭和歌謡博士ちゃん」達は、「学校を卒業したら、職種が表であれ裏であれ、音楽の世界に身を置いて生きていく」事が共通の目標と成ってる事だろう。番組の主題曲を作って演奏したヴァイオリン奏者氏も恰好の後援者と成る事だろうし。

一方、「此処から話を戻して」
「戦国武将博士ちゃん」達の場合――

歴史の話は日常生活に直には響かぬが故に、其だけに卓越しているも、職業にして生きていく事は先ず出来ない。但、:。

此処は一つ、彼等が戦国武将を選んだ、其の平均的な動機に注目したい。

総じて「自身の生命を犠牲としてでも、家臣更には支配下領域の住民を護り通した」武将を選ぶ傾向が見られた―と筆者は前述したが、是は、「人民に拠る」とは必ずしも一致しなくとも、「人民の為の」政治を営む姿勢とは略其の儘一致する―と言って誤りでは無からう。

若しかすると、今回の投票に参加した「戦国武将博士ちゃん」達は「一五〜二〇年後(↓満二五歳以降||現行憲法下、立法議員(除く参議院の被選挙権取得)が楽しみ)な、即ち未来の政治家候補に成

り得るかも、——この思いも筆者には過よって来た。——そう。今冬(二月二五日付)、元NHK記者氏(以下、元N氏)を迎え六人の「博士ちゃん」達が参加しての「ニュース解説講座」が放送された

(但し此の時は、現在進行中の政治関連の話を取って避けた)が、今度は思い切つて、「政治や宗教の特定団体名を語らぬ事(↑不偏不党と政治的公平の確保:放送法で規定を条件として)現在進行中の政治関連の話について課題を二乃至三件に絞った上で、再び元N氏「又は新たに、当該課題に関する専門家氏」を迎え、「戦国武将:」から選抜の数人に他分野から数人を加えての「博士ちゃん」達——九人が限度か?——の参加で「私(僕)達が平和な日本・平和な世界の為にやるべき事」について、意見を戦わせつつ考える事を一度、二時間前後の枠を確保し放送してみるべきだろう。——若し国際問題を扱うな

ら、「大使館巡り」の中学一年男子(六月三日放送。「将来は国際連合の職員に」旨を語ってた)も参加させる事、お忘れ無く。

お断り

■佳羅研では、俗に云われて居ります「ギフテッド」を「特定分野に特異な才能の在る児童生徒」と言い換え、当該記事に於ける本文の二回目以降と見出しについては「特才児」と略記致します。尚、当事者本人が満一八歳以上で且つ中等教育(高等学校)の課程を卒業している場合は「特才者」と略記致します。是は、文部科学省(文科省)が「ギフテッド」を「特定:児童生徒」と言い換えてる事を踏まえ、同省(≡日本政府)の命名に基づいて最大名称を先ず表記し其に沿う格好で略称(四文字以内)を当方で編み出し本文の二回目以降と見出し用に使つ——と云つ行いが「自国語を正しく使う事は愛国心の基本」と考える佳羅研としての理に叶つものかと判断するが故です。

■佳羅研では、独自の「人名掲載基準」を取って制定し、当所が公開を前提として運営する媒体(印刷物並びにイン

ターネット上のホームページ(含む「ブログ」)に於ける個人名の表記を自主規制して居ります。是は、「個人情報保護」や「誹謗中傷及び名誉棄損の予防」も然る事乍ら、「例えば世間的に実名で広く知れてる人であっても、特定の伝達媒体では(個人運営や、例えば法人であっても『日本新聞協会』又は『日本雑誌協会』の何れかに加盟してない場合に在っては特に)自らの実名を取って明らかにしない・したくない」場合も在り得る事を考えた為です。

〈佳羅研究所人名掲載基準(抄)〉

一 佳羅研究所及び其の構成員の信義に拠り運営する媒体に於いては、「個人情報保護」並びに「誹謗中傷及び名誉棄損の予防」と云う観点から、個人の氏名は、次三つの何れかに該当する場合を除き、仮名又は匿名とし、本人「又は親族或いは所属先たる法人」が書面(封書又は電子私信)を通して実名表記を希望した場合についてのみ、特例を適用の上で実名(婚姻して居る女性については、旧姓を通称として用いている場合を含む。以下同じ)を以て表記するものとする。

① 国会の議長又は副議長・内閣総理大臣又は国務大臣・最高裁判所の裁判官並びに都道府県知事の各現職及び経験者。

② 刑事事件の被(容)疑者(但し、警

察又は検察機関が指名手配又は逮捕の事実を発表して以降に限る)。

③ 死後一週間以上を経た、物故者たる有識者(生前に氏名を公然と表示の上で職務に従事した者に限る)。

二世襲の君主及び其の親族については成年後に限り、前述の①と看做し、特例を適用する。

三 外国人の場合、存命中の者については、元首(大統領等)・国会議長及び最高裁判所の長の、何れも現職及び経験者に限り、前述の①を準用し、物故者については前述の③に該当する場合に限り、日本人と同様に扱うものとする。

⇒ 番組『博士ちゃん』の出演者名は著作者『テレビ朝日』(≡一般社団法人『日本新聞協会』社員)がホームページで公表致して居りますが、佳羅研では、以上に述べた「人名掲載基準」に従いつつ、前述したインターネットの「負の特性」並びに法人格が無い自らの立場も考慮の上で、匿名又は仮名を原則と致して居ります。

◎ 佳羅研が運営する媒体に於いて実名表記を希望される方は、電子メールにて其の旨をお寄せ下さい(「アドレス」は次頁左下の枠内を参照の事)。特例を適用の上で改めて、実名で表記させて戴きます。

◆振り仮名で「(X)」と記してる箇所は、発音しない文字を表します。

■本書の作成に際しては、『テレビ朝日』『ホームページ』『ウィキペディア』『フリー百科事典』を主に参照致しました。——尚今回、「美空ひばり」に関して特に、以下の文献を『ウィキペディア』：経由で参照致して居ります。

▽時事ドットコム(時事通信社)▽
『東映映画三十年あの日、あの時、あの映画』(東映)一九八一年「五八―五九頁」▽『クロニクル東映一九四七―一九九一』(東映)一九九二年「二卷九七頁、二卷一―四、一八頁」▽『週刊朝日』一九六七年八月二五号(朝日新聞社)「一一―一頁」▽『産経新聞』一九九五年二月二一日・朝刊特集「戦後史開封(第四八一回)」(産業経済新聞社)▽『埼玉新聞』二〇一一年一月二五日(埼玉新聞社)

お詫び

九月半ばを目途に本書を完成させる予定の所、対象期間に放送分の考察に想定外の時間を費やし、今回考察対象外の期間に放送済の分よりも本書の完成が遅れる羽目と成りました。尚、九月以降放送分に関しては日を改め、考察対象を選別の上「其の伍」で扱う予定です。

佳羅放送戯評
『博士ちゃん』に想う事
其の四

2023年(令和5年)10月5日発行
【10月23日加筆修正済】

発行者 佳羅研究所

<http://www.kar2007el.ecweb.jp/>

お問い合わせ先(電子メール)

s9p-14@kar2007el.ecweb.jp